慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

| | |
|---|---|
| Title | 企業経営における非合理的判断についての試論 |
| Sub Title | |
| Author | 藤田実(Fujita, Minoru)<br>高木晴夫 |
| Publisher | 慶應義塾大学大学院経営管理研究科 |
| Publication year | 1993 |
| Jtitle | |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 修士学位論文. 1993年度経営学 第1031号<br>複写許諾が必要 |
| Genre | Thesis or Dissertation |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001993-1031 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No.1031

学生氏名　藤田　実　主査　高木　晴夫
副査　嶋口　充輝
太田　康信
所属　高木　晴夫　研究室

# 企業経営における非合理的判断についての試論

企業経営にまつわる様々な意思決定場面において、私たちはどのような基準をもとに判断を行っているのであろうか。一般的には問題事象を客観的、因果的に分析して特徴化、要素化したり、様々な尺度を用いた数値化による経済的優劣を比較したりといった、いわゆる『合理的』な方法に基づくことが望ましいとされているといえるであろう。これに対して本論文では、こうした『合理的』方法とは単なるフィクションに過ぎないものであるとの認識をもとにその限界性を指摘し、さらに昨今の企業経営がそこに依存を深める傾向にあることへの警鐘を促そうとするものである。私たち人間には、まず最初に言葉に出来ない直観的な『非合理的』認識があって、それを具現化するための道具として言葉や記号を始め、法則化や社会的枠組みなどといった『合理的』方法が用いられるのである。よって意思決定場面における判断基準は『合理的』方法によって比較検討された結論にではなく、第一義的には『非合理的』な部分に存在しているのである。しかしながら本校を始めとした高等教育機関は『合理的』方法による普遍化された形を求める傾向にあり、こうした『非合理的』なものは普遍化出来ない個別のことであるとして、これまであまり光を当てられてこなかった。本論文はこれに対するひとつの「試論」として、企業経営における『非合理的』な部分をあぶり出そうとするものである。